

MOBIOものづくり支援アクションプランの概要

プランの背景 (府全体の方向性)

大阪の成長戦略 (H22.12.28)

- <策定の趣旨>
 - 今後10年間の成長目標を掲げ、それを実現するための短期・中期(3から5年)の具体的な取組方向を明示
- <大阪・関西が目指すべき方向性>
 - ・ハイエンド都市(価値創造都市)
 - ・中継都市(アジアと日本各地の結節点)
- <成長の源泉>
 - ・強みを生かす産業・技術の強化
 - ハイエンドなものづくりの推進
 - ・MOBIOでのプロジェクト創出支援の最適化
 - ・新しい公共も含む産学官ネットワークの組織化

知事メッセージ (H22.12)

- <ものづくり中小企業の皆さんへ>
 - ・変革と挑戦!
 - 急成長するアジアを中心とする新興国。日本の相対的な地位は低下。要因の一つはグローバル化への対応の遅れ。このピンチをチャンスに、大胆に「変革」し、新たな分野や市場に「挑戦」を
 - ・強みを再認識。技術を活かして新たな分野に!
 - 自らの強みを点検し、再認識する。自立自尊の気概、匠の精神で、付加価値を高める。変化を恐れず新たな分野に果敢に挑戦を
 - ・世界へ、アジアへ、打って出ましょう!
 - 生き残りをかけ、世界へ、アジアへ打って出る。思い切って、飛び出してみませんか。

MOBIOの役割＝産技研等との連携

- 技術開発、販路開拓の総合マッチング・センター
「ものづくりのビジネス・パートナー」
 - 定評のある企業紹介業務に加え、技術、経営相談などのコンサル型サービスで訪問・巡回や企業の成長ステージに応じたサービスを双方向に提供する
～双方向企業コミュニケーションの実践場
 - ものづくり中小企業と大手、大学、異業種など様々な主体との交流・マッチング機能を強化
 - パブリシティ戦略を構築しPRを強化
 - 新たな展開の方向性に相応しい運営体制を再構築
- 技術支援拠点である産技研「ものづくりテクノ・パートナー」と連携し、府の2大拠点で、ものづくり中小企業を支援

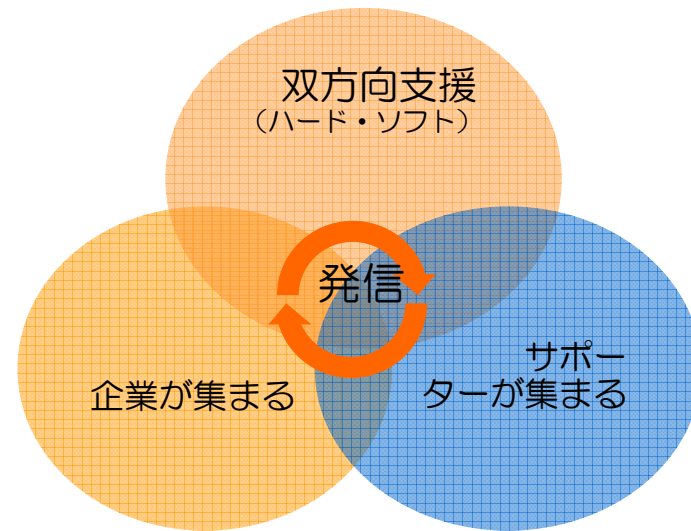
ミッション (目指すべき方向性)

ものづくり中小企業の自律的な「変革と挑戦」を支援する拠点

～MOBIOは、企業の変革と挑戦に向けた「知る、やる、集まる」を徹底的に支援～

- 「知る」情報の収集と企業向けの発信を強化
- 「やる」様々なステージで、場面で、支援を展開
- 「集まる」ものづくり中小企業と企業・支援拠点・支援人材の交流機会を創出

双方向な施設・サービスを積極的に展開し、それを媒介に、企業や企業をサポートする人材が集まる施設へ



5つの戦略 (支援の方向性)

MOBIOは、5つの戦略を柱に、ものづくり中小企業の変革と挑戦を支援!

戦略1：交流と情報発信で変革・挑戦意欲を喚起

- ・MOBIOの施設機能と府・関係機関のコーディネート力を動員して、経営や技術の革新に挑む意欲の喚起や企業間連携の苗床となる中小企業の交流機会を創出
- ・支援拠点、支援人材の集まる交流機会を創出
- ・中小企業向け情報を収集し、また、取り組みを発信し、変革と挑戦マインドを喚起

戦略2：ものづくりビジネスマッチングを支援

- ・国内外に向けた大阪のものづくりのプロモーションと、ものづくり中小企業へビジネスチャンスを提供
- ・産業構造や取引関係の激変な変化に対応できる新たな企業態様への創出、育成
- ・国、産業支援機関・団体、大学や公設試等の研究機関、金融機関など外部のリソースと連携して、マッチング案件に対し徹底的にフォロー

戦略3：ものづくりの技術革新を支援

- ・情報発信と技術交流を通じ、中小企業の技術・研究開発意欲を喚起
- ・府立産業技術総合研究所との連携や産・学の連携プロジェクトを通じて、中小企業の技術高度化と事業化を支援

戦略4：中小企業のデザイン戦略を支援

- ・府産業デザインセンターと連携し、府内中小企業のデザイン理解・活用を促進し、ユーザーのニーズを踏まえた商品やサービスの高付加価値によるビジネスの高度化を図ることにより、中小企業の競争力を高める。

戦略5：中小企業の知的財産戦略を支援

- ・大阪府知的財産戦略指針に基づき、最適な知的財産の「生み出し方・守り方・活かし方」を実践して競争力を強化する企業を増やす取り組みを推進
- ・支援対象を明確化し、MOBIOを拠点に知財支援機関との連携・ネットワークを構築して実施

5つの戦略のもと
17アクション
36事業
をアクションプランに位置づけ展開

戦略を推進する体制 (組織の方向性)

アクションプランを推進するためMOBIOは「IMO」を構築

■MOBIOのIMO化

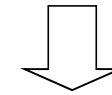
(Innovation-Project Management Organization)
ものづくりに関する個別のプロジェクト・案件処理を通して、様々な機関と連携し解決するプロセスをマネジメントする「ものづくりのソリューション」を提供する組織を目指す。

■IMOのミッション

ものづくり集積を活性化し、新たな技術・製品開発プロジェクトの創出と発信を展開

■産学官+民とのネットワーク

ものづくり活性化を担う地域の活動主体とも連携を促進



MOBIOに持ち込まれる様々な案件を内部資源・外部ネットワークを通じて、解決することで、国内外から信頼される、ものづくり地域として機能。
これをもって、持続可能なイノベーション活動を推進する。

アクションプランの評価体制

平成22年度設置した「MOBIO活性化委員会」において、引き続き、プランの評価を行う

- 委員長：堂野 智史 (メビック扇町所長)
- 文能 照之 (近畿大学経営学部教授)
- 大西 正曹 (関西大学社会学部教授)
- 中世古 裕之 (大阪弁護士会弁護士・弁理士)
- ほか 企業委員3名、中小機構、東大阪市、オブザーバ